

【基礎研修(1)(2)講義科目】

区分	プログラム	講師*敬称略、所属は収録時情報		収録	公開
基礎研修(1) 該当 8 科目	がん対策	厚生労働省健康局がん・疾病対策課	笠原 真吾	2020年6月	2021年2月
	相談支援	愛媛大学医学部附属病院	塩見 美幸	2020年11月	2021年2月
	社会資源	国立がん研究センター東病院 サポーターズケアセンター ／がん相談支援センター	坂本 はと恵	2019年9月	2020年1月
	臨床腫瘍学	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	下井 辰徳	2020年6月	2021年2月
	緩和ケア	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科	石木 寛人	2018年6月	2019年3月
	精神腫瘍学	国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科	小川 朝生	2020年6月	2021年2月
	放射線治療	国立がん研究センター中央病院 放射線治療科	井垣 浩	2019年6月	2020年1月
	薬物療法	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	野口 瑛美	2018年6月	2019年3月
基礎研修(2) 該当 11 科目	がん予防	国立がん研究センター社会と健康研究センター 予防研究部	井上 真奈美	2020年6月	2021年2月

がん検診	社会と健康研究センター 検診研究部 検診実施管理研究室がん対策情報センター がん医療支援部 検診実施管理支援室	高橋 宏和	2018年6月	2019年3月
診療ガイドライン・エビデンス	国立病院機構九州がんセンター 国立がん研究センターがん対策情報センター	藤 也寸志 櫻井 雅代	2020年6月	2021年2月
支持療法	国立がん研究センター中央病院看護部	藤井 恵美	2019年6月	2020年1月
臨床試験	国立がん研究センター中央病院臨床研究支援部門 研究企画推進部多施設研究支援室	江場 淳子	2019年6月	2020年1月
肺がん	国立がん研究センター中央病院呼吸器内科	堀之内 秀仁	2018年6月	2019年3月
乳がん	国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科	野口 瑛美	2019年6月	2020年1月
大腸がん	国立がん研究センター中央病院消化管内科	高島 淳生	2019年6月	2020年1月
胃がん	国立がん研究センター東病院消化管内科	小谷 大輔	2020年7月	2021年2月
相談対応の質評価	国立がん研究センターがん対策情報センター	志賀 久美子	2020年9月	2021年2月
肝胆膵がん	国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科	奥坂 拓志	2019年6月	2020年1月

【基礎研修(1)(2)講義内容詳細】

区分	プログラム	講義内容詳細	内容分類
基礎研修(1) 該当 8 科目	がん対策	<p>がんはわが国の死因の第 1 位であり、約 2 人に 1 人ががんになる。本講義では、国ががん対策基本法に基づいて策定しているがん対策推進基本計画と、第 3 期がん対策推進基本計画に沿った国のがん対策の概要を紹介する。具体的には、これまでのがん対策の経緯、第 3 期基本計画の概要、がん診療連携拠点病院等の指定要件、がんに関する相談支援・情報提供、地域連携、がん患者・経験者の就労支援を紹介する。</p> <p>【キーワード】 がん対策基本法、第 3 期がん対策推進基本計画、がん予防、がん検診、がん医療の充実、がんゲノム医療、希少がん、小児がん、AYA 世代のがん、がんとの共生、緩和ケア、就労支援、アドバンスケアプランニング (ACP)、がん診療連携拠点病院等の種類・指定要件、小児がん拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院等、がん相談支援センターの業務、相談支援・情報提供、地域連携、就労支援</p>	基盤科目
	相談支援	<p>がん専門相談員は、患者や家族等の相談者がその人らしい生活や治療選択ができるように支援することを役割とする。本講義では、日本のがん対策の中でのがん専門相談員の位置づけを歴史的経緯を踏まえて説明した後、がん専門相談員にとって業務の指針となる、がん相談支援センターやがん専門相談員に求められる基本姿勢、International Cancer Information Service Group (ICISG)の“Core Values”、がん相談 10 の原則、がん相談支援のプロセスについて詳しく解説する。</p> <p>【キーワード】 がん専門相談員、基本姿勢、Core Values、がん相談 10 の原則、がん相談支援のプロセス</p>	基盤科目
	社会資源	<p>がん患者とその家族は、がん罹患することにより、様々な社会的・経済的問題を抱える。本講義では、がん患者と家族が持つ社会的・経済的問題を解決するために有用である社会資源の種類とそれらの特徴を紹介する。また、具体的事例を紹介するとともに、社会資源の利用を推奨する際の留意点について解説する。</p> <p>【キーワード】 社会資源、公的制度、社会的・経済的問題</p>	基礎科目
	臨床腫瘍学	<p>各種がんの治療を理解するためには、がんの基礎知識を踏まえた治療の基本的な考え方を理解しておく必要がある。本講義では、がんの発生要因、がんの性質、検査から治療までの流れとともに、近年の治療の流れであるプレジジョンメディシンについて概説する。</p> <p>【キーワード】 ゲノム、遺伝子、発がんの要因、腫瘍、TNM 分類、検査、手術、放射線治療、がんゲノム医療、プレジジョンメディシン</p>	基礎科目

	緩和ケア	<p>緩和ケアは患者・家族の苦痛を予測・予防・軽減する医療であり、がんと診断されたときから緩和ケアを受けることが効果的とされる。本講義では、緩和ケアの目標を復習し、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛の内容を概説する。また、自宅での最期を希望する患者が多く、緩和ケアは在宅の場でも実施される必要がある。最後に、緩和ケアをおこなっていくために緩和ケアをおこなう人材育成等の現状も紹介する。</p> <p>【キーワード】 緩和ケア、苦痛、終末期、在宅医療連携、がん疼痛</p>	基礎科目
	精神腫瘍学	<p>がん患者・家族は、あらゆる時期において精神心理的苦痛を抱えている。精神心理的苦痛に対応するためには、その苦痛を的確にアセスメントをし、情報提供や情緒的サポートを提供するとともに、必要な専門的支援につなぐ必要がある。そのために必要な知識や支援の方法を概説する。</p> <p>【キーワード】 精神腫瘍学、診断時からの支援、治療と一体となった支援、緩和ケア的アプローチ、精神疾患を持つ患者・高齢がん患者の支援、家族支援、尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築</p>	基礎科目
	放射線治療	<p>放射線治療は、手術・化学療法と並んで、がんの三大治療の一つである。本講義では、放射線治療の目的や放射線治療の装置と特徴等の基本的知識、サイバーナイフや粒子線といった最新の放射線技術、各種がんにおける放射線治療の目的、放射線治療の流れとスケジュール、放射線治療の副作用と対策、そして費用について解説をする。</p> <p>【キーワード】 放射線治療、IMRT、放射線治療装置、粒子線、根治治療、緩和治療、治療開始までの流れ、副作用、費用</p>	基礎科目
	薬物療法	<p>薬物療法はがんの三大治療のうちの一つで、手術や放射線治療と組み合わせて集学的治療が実施されることが多い。本講義では、がん薬物療法の目的、がん薬物療法薬の種類、がん薬物療法の流れ・適応、そして副作用について具体的に紹介する。また、がん治療の経済的毒性と医療費についても概説する。</p> <p>【キーワード】 薬物療法、分子標的薬、内分泌療法薬、免疫療法、副作用、免疫チェックポイント阻害薬、生殖機能、医療費</p>	基礎科目
基礎研修(2) 該当 11 科目	がん予防	<p>日本人における科学的根拠に基づくがん予防法として、喫煙、飲酒、食生活、感染、体型、身体活動に対する 5 つの健康習慣が、がんになるリスクをほぼ半減させることがわかっている。がん予防の大部分は日常生活の改善でできるため、私たちは巷の情報におどらされず、がん予防の考え方を正しく理解し、伝えていくことが必要である。</p> <p>【キーワード】 科学的根拠に基づくがん予防</p>	実践応用科目
	がん検診	<p>がん検診では、がん罹患している者や疑いのある者を早めに発見し、必要かつ適切な検査・治療につなげることで、がんの死亡者の減少を目指す。本講義では、がん検診の目的と考え方・評価の方法、対策型検診として現在推奨されている各検診について、紹介する。その後、がん検</p>	実践応用科目

	<p>診での精度管理のための方法や、がん検診の利益・不利益、がん検診の問題点について説明する。</p> <p>【キーワード】がん検診、健診、感度、特異度、精度管理、受診率、過剰診断</p>	
診療ガイドライン・エビデンス	<p>患者や家族は、科学的根拠に基づく信頼できる情報を入手することにより、その人らしい生活や治療選択が出来るようになる。本講義では、先ず私たちを取り巻く医療情報と、診療ガイドラインについて紹介する。その後、がん専門相談員が目指す情報支援、ヘルスリテラシー、相談者に合わせた情報の伝え方について考察する。</p> <p>【キーワード】インターネット、書籍、エビデンス、診療ガイドライン、CQ形式、推奨グレード、情報支援、ヘルスリテラシー</p>	実践応用科目
支持療法	<p>がん治療をおこなうにあたって、副作用や合併症の出現は不可避である。本講義では、先ずがん患者の多様な気がかりや困りごとを、データに基づいて解説する。次に、手術療法・化学療法・放射線療法でおこりやすい副作用・合併症と、それぞれの症状に対するケアや日常生活上の工夫について具体的に紹介する</p> <p>【キーワード】がん治療、支持療法、副作用、合併症、悪心・嘔吐、末梢神経障害、皮膚障害、口内炎、脱毛、リンパ浮腫</p>	実践応用科目
臨床試験	<p>最良の治療である標準治療の確立をするためには、臨床試験が必要となる。本講義では、先ず治療開発における臨床試験の位置づけや臨床試験の種類、臨床試験情報の探し方と日本の臨床試験登録システムについて紹介する。また、仮想事例をもとに、患者からの臨床試験の相談対応の方法を解説する。</p> <p>【キーワード】臨床試験、標準治療、第Ⅰ相試験、第Ⅱ相試験、第Ⅲ相試験、治験、未承認薬、適応外薬、先進医療、患者申出療養、拡大治験、臨床試験登録システム</p>	実践応用科目
肺がん	<p>肺がんの死亡数は男性で1位、女性で2位であり、日本人にとって大変身近ながんである。本講義では、肺の構造や機能、肺がんの死亡数・危険因子という基礎知識をおさえる。次に、肺がんの診断、検査、進行度分類、組織や特徴による分類について解説した後、治療の選択方法・手術・薬物治療・放射線治療・緩和ケアについて概説する。</p> <p>【キーワード】肺、死亡数、危険因子、気管支鏡検査、PS</p>	各論専門科目
乳がん	<p>乳がんの罹患患者数は増え、女性の11人に1人は乳がんを患っている。本講義では、乳房の構造と乳がん、日本における乳がんの罹患率と死亡率、乳がん発症に関連する因子、乳がん検診について紹介する。次に、乳がんの症状、マンモグラフィや病理組織学的検査といった乳がんの検査、乳がんの診断と分類を概説する。治療では、乳房再建術を含めた手術療法、放射線療法、薬物療法を、そして妊孕性温存や化学療法の費用について紹介する。</p> <p>【キーワード】乳房、マンモグラフィ、サブタイプ分類、早期乳がん、乳房再建術、進行・再発乳がん、内分泌療法、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各論専門科目

	大腸がん	<p>ここ 50 年で大腸がんによる死亡数は約 10 倍増加している。本講義では、大腸がん部位別発症頻度や大腸癌の死亡数・リスク、診断や分類等についてまず解説する。次に、進行度別治療法を紹介した上で、大腸がんの治療法を具体的に説明する。手術では内視鏡や人工肛門増設術等について、化学療法では用いられる薬剤の成績と副作用について、最後に一般的な質問事項について説明する。</p> <p>【キーワード】内視鏡、内視鏡的治療、ストーマ、術後補助療法、切除不能再発大腸がん、副作用、緩和ケア</p>	各論専門科目
	胃がん	<p>胃がんは男女共に頻度の高いがんの 1 つで、がんの死亡数では男性第 2 位、女性第 4 位となっている。本講義では、先ず胃がんを理解するための基礎知識として、死亡数・生存率・危険因子を紹介する。その後、検診・診断・進行度分類を含めた胃がんの診断について、治療アルゴリズム、各治療の内容を紹介する。</p> <p>【キーワード】胃がんを理解するための基礎知識、危険因子、検診、進行度分類、治療アルゴリズム、手術、薬物療法、放射線治療</p>	各論専門科目
	相談対応の質評価	<p>がん相談支援センターで求められている品質基準を満たすためには、品質管理と品質保証が重要である。本講義では、それぞれの具体的な内容を概説し、特に相談対応の質の保証(Quality Assurance)について、がん相談対応評価表が作られた目的や経緯と使用方法やルール、自施設で相談対応モニタリングを行う際の準備や進め方について紹介する。</p> <p>【キーワード】組織における品質管理と品質保証活動、Cancer Information Service (CIS) のための“Core Values (基本姿勢)”、がん相談 10 の原則、がん相談対応評価表、がん相談対応モニタリング</p>	実践応用科目
	肝胆膵がん	<p>肝がん、胆道がん、膵がんは、いずれも難治性のがんである。本講義では、これら 3 つのがんの原因や診断・治療について、それぞれ概説していく。具体的には、肝がんでは肝炎と肝がんの関連、ラジオ療法等の局所治療を含めた治療法、医療費、胆道がんでは診断、治療法の選択と内容 (特に化学療法の進歩)、膵臓がんでは診断、治療を切除例・局所進行例・遠隔転移例・免疫療法にわけて解説する。</p> <p>【キーワード】肝がん、肝炎、局所療法、胆道がん、膵がん、免疫療法</p>	各論専門科目